

## f SNSに寄せられたコメント

●市議には年齢が離れている人が多く、「この人は何をしているのか」から調べるまでが長い道のりですね。若者が政治に関心ないんでしょうか。よくわかりませんが、選挙については中学生でやるし、いちばんは公共事業への関心だと思います。自分たちのお金が何に使われているか可視化していれば関心も広がるのではないのでしょうか。(まづぐりに関心の強い大学生Mさん・10代)

●政治に関わらなくても生活していけると思っているから、政治が変われば生活も変わる部分があることを知ることが大事で、郷土や市民への理解を深めてより良い生活を実現する場所を、未来を想像しながら培っていくことができると知ることができればいいと思います。あちこち引越して渡り歩いた元熊谷市民の私。どこへ住んで街を歩いても、「めんどくさい」という「楽しみ」を知っている人たちが垣根無く協力し合っている場所はおもしろいなあと感じます。(イラストレーターSさん・30代)

●アナログすぎて時代に合わない時点で、よりよきよという心意気を感じません。生まれつき車椅子生活の友人が段差ありすぎて選挙行くのは一苦労といってるし、高齢になって足腰弱くなったら選挙行けません。産後2か月の時の選挙、ふらふらになりながら子どもを抱っこ、夫は仕事で体が辛かった。なぜ、Webでできない。期日前投票の投票できる時間が短すぎ。マイナンバーとか活用はいまでは?どこいった。選挙カーで、せっかく寝ました子どもが起こされたとたまりません。当日の会場スタッフも適当すぎる。公約一覧くらい事前に会場に用意しておいてほしい。全体に投票させたくないんだとすら感じます。よって、行くのが馬鹿らしくなる、けどわたしは行ってます。(転勤で3年間熊谷で暮らした関西出身1児のママKさん・30代)

●保育所、学校関係について感じているのは、施行になるまで時間がかかること。聞けば納得いく話なのに、予算組みとかいろんな事で動くのは2、3年先だったりする。もっと意見が吸い上げられ、スピード感がある行政だったら、市民も主体的に「市政に参加している」という実感も持て、投票率も上がるんじゃないかと思えます。これは児童福祉の観点ですが、いろんな分野でも言えることではないでしょうか。(お花や市民活動もするママOさん・30代)

●多分ですが政治というのが遠い存在なんです。政治家と話す機会がなく自分の意見を聞いてもらえてないから。若い人が政治家と話せる場が多ければいいんじゃないでしょうか。(深谷の若手農家Tさん・40代)

●投票率が低い=政治への関心が低いと言っただけではないような気がします。逆に政治への関心があるのに関わらず、妥当だと思う候補者が居ない故に投票しないと言っただけではないかと思ってます。自分の住むみどり市も投票率が低かったですが、投票したい候補者がいないと感じた人たちが立ち上がったようです。今回の市議選説明会には定数18人に対して30陣営が参加したとか。期待します。(熊谷のミニFMにも関わるOさん・40代)

●変わらない、反映されない、行ってもムダ的なネガティブな思考が多いと思います(籠原の設計士Sさん・50代)

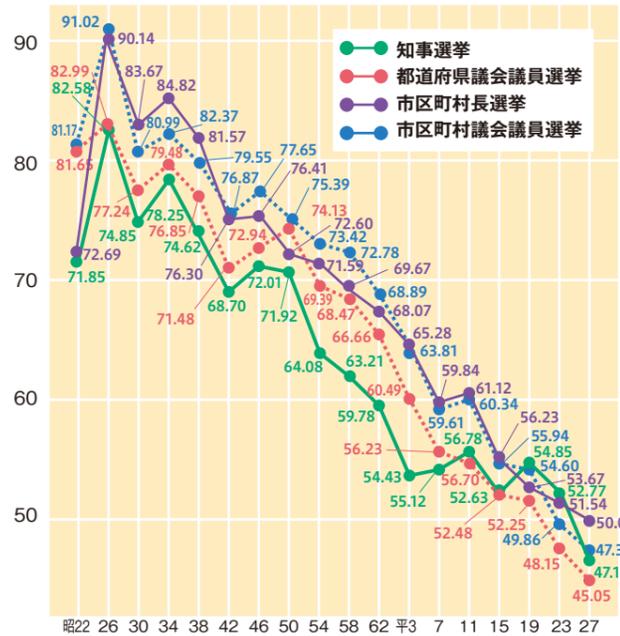
●政治とは何なのかそもそも理解出来ていないから、政治がないとどうなるのかを示すとインパクトが大きい。まずは志のある行動力のある人を集める、お金を集める、そのお金の配分を決める仕掛けづくりが必要でしょう。今の延長線上で考えていてもダメでしょうね。一回ぶっ壊す覚悟でやらにゃ。(数年前に熊谷に移って起業した正義の味方 石のソムリエ・50代)

●熊谷市は投票率が低いんですか! ?おそらく、市政に対して諦めがあるのではないかと思います。(退職後は音楽を学ぶMさん・60代)

●政治と生活との距離感がますます大きくなってきました。県議は何をやっているかわからず、一般市民は蚊帳の外。市議は、本来自治会長の役割程度の活動をしています。一部の正当支持者だけでなく、今まで投票していなかった人に投票してほしい。(市議経験のある深谷市Tさん・60代)

●地域でやってほしいことを立候補者に託す機会が選挙。任期中に何をしたら、当選したら何をやるのかを比較できるもの共同でつくるのはどうでしょうか。県知事選までは参加する1市民団体 Code for で、マニフェスト比較を公表してました。(立正大学・後藤真太郎さん・60代)

## 統一地方選挙における投票率の推移



総務省「目で見える投票率」より。戦後はだいたい右下がりですが平成になってからとくに下がっているが、全体的に県より市区町村の選挙の方が高く、候補者が身近なほど投票率は高い傾向にある

55年体制崩壊、組合活動などの低下、情報社会化で見えてしまう限界…。理由はいろいろあっても、「変わらない感じ」は共通する。ならば「変えられる実感」を持つてもらおうのがいちばんで、それには話をするのがいちばん。自分たちに何が出来るか知るのも時間はかかるが、それを知りつつ行動している人は熊谷にもたくさんいて、またそういう人たちが信じて何かしようとしている。おおよざっぱにまとめると、そんなところだろうか。

ラグビーも選挙も熊谷をよくするためのきっかけ  
低投票率を嘆くことなく、少しでも政治に関心を持って行動する人を増やす。そんな試みは、熊谷だけでなく全国で起こっている。商店で投票日に投票したことを示すと割引になる「選挙割」、従来の選挙活動のイメージを変える選挙フェスなどだ。

ラグビーも選挙も、みんなが熊谷をよくするためのきっかけという点では同じだと思うんですよね。ラグビーだってゴールまで距離があつての逆転トライの方が盛り上がるんだから、投票率が低かったらそれだけやることは多いんじゃないですか(臼杵さん)  
ラグビーワールドカップと選挙の違いは、後者はこれからも何度も熊谷で行われること。ゲームが多ければチャンスも多い。  
レッツ・トライ・トゥ・ヴォート!

熊谷は「低投票率スパイラル」にあるか? 熊谷市だけではなく、平成の選挙は低投票率に悩んできた。最近の熊谷市の選挙では、28年7月の参院選が47・8%で県内72市区町村中58位、27年8月の知事選が25・8%で同55位に終わっている。とくに、若い世代の投票率の低さが問題になることが多い。原因

として埼玉県は、「若者の政治離れ」若者の投票率低下「若者に向けた政策の減少」という「低投票率スパイラル」をあげている。現在の熊谷市の選挙では、衆院選小選挙区で江南地区だけが深谷・本庄といつよの11区に切り離されていることなど制度上の問題がないわけではない。それにして、有権者の半分も投票しない

という状況は何とかすべきだろう。子どもがターゲット? 早期有権者教育 市の投票率アップ取組のひとつが「家族で投票所へ行こう! キャンペーン」。統一地方選など今年行われる4つの選挙で、小中学生が投票所に行くことと抽選で300人に「消せる蛍光ペンセット(3本)」が当たるという。選挙1回につき1応募だから、回数が多いほど当選確率は高い。親といつよに投票所に行ったことのある子どもの投票率が高いというデータから、早期有権者教育が推奨されているのを受けた取組だ。

SNSでの意外でさまざまな反応 低投票率だけではないが、多くの問題はそれを問題だと思わない人が関係しているから解決がむずかしい。それは承知の上で、いろんな人に意見をきいてみよう。SNSで呼びかけてみると、さまざまな世代から予想より多くの回答が寄せられた。極端なものもあるが、一部を紹介しよう。 設問は、①(熊谷の)投票率が低い政治への関心が低いのはどうしてでしょうか? ②投票率を上げる政治への関心を高めるにはどうしたらいいでしょうか? ③「これからの熊谷にあるべき政治」がどんなかたちでしょうか? としたがみなさん、それぞれのスタイルで書いてくれたので編集して投稿者ごとと並べた(別枠)。



仕事や用事があったから	40.9%
選挙にあまり関心がなかったから	40.9%
適当な候補者や政党がなかったから	18.2%
選挙によって政治はよくなるから	18.2%
政策や候補者の人柄などがよくなるから	13.6%
私一人が投票してもなくても同じだから	13.6%

埼玉県選挙管理委員会「有権者ノート」より。若者の投票率は高くない

## 巻頭特集 統一地方選2019 近く レッツ・トライ・トゥ・ヴォート!

熊谷にとっての2019年はなんといってもラグビーワールドカップだが、こちらも4年に1度の「統一地方選」イヤーでもある。18歳へ選挙年齢引下や、学生の政治団体の活動が話題になるなど、ここ数年新たな政治に関する動きも起こっている。そんな中、2019年熊谷の選挙は投票率はどうなるのか。いくつかの動きをレポートする。

